

総合体育館リニューアル

外壁塗装工事が完了しました



総合体育館入口の外壁塗装工事が完了しました。皆様には足

場等でご迷惑をおかけいたしました。事故も無く終了する事が出来ました。ご協力いただきましてありがとうございました。



リニューアルした外壁はお客様から好評です。海と空の青さにもまけない爽やかな水色の外観でお客様をお迎えいたします。また、施設内・周辺の草刈りも終わり、見違えるほど綺麗になりました。

た。今後は屋根の防水や水漏れ等の補修も行う予定です。

当施設ではお客様の心身の健康づくりのお役に立てるよう、運動推進・健康増進の案内とお手伝いを日々行っております。競

技場、アリーナ、トレーニング施設は個人でのご利用も可能です。安全・安心な環境を提供するために、引き続き感染症対策にも気を配ってまいります。ぜひご活用ください。(中村)

学携 周防大島高校での出張授業



9月9日(木)、新たな博学連携事業として、周防大島高校で宮本常一のフィールドワーク法を学ぶ授業を行いました。

とし、島の先人である宮本常一からその調査手法を学ぼうというものでした。

宮本の著書の言葉を借りつつ、フィールドワークの実例として昭和26年からはじまった『久賀町誌』編纂の事例をあげました。この調査は宮本自身が「町をあげての協力」が得られたと形容するものでした。調査には、対象とする現地を実際に知るのと同時に、現地の人々と信頼関係を築く

ことが大切であること、そのほか、様々な目線からの意見が期待できるグループでの調査が大事であることをお伝えしました。

次に学芸員の実践例をあげて、過去・現在・将来の視点に立った調査の重要性をお伝えしました。今だけの周防大島を見るのではなく、対象が過去どうだったのか、将来どうなるのかをよいかを考える。個々がこの認識を持つことでよりよい周防大島を目指す事ができることなどを話しました。質疑応答ではたくさん質問をうけ、関心を持っていただけたようでした。

これをうけて10月7日(木)には、周防大島の歴史に興味をもった生徒さんが、宮本自身についてより理解を深めようと当センターに来館されました。展示されている宮本の生涯や業績、彼が集めた民具を見てもらい周防大島にどのような産業や文化があったのかを紹介しました。

当センターでは引き続き宮本常一の残した資料や業績の紹介、学校と連携した地域学習の場を提供していきます。(徳毛)



ハワイ移民資料館

検索コーナーその後 海外旅券勘合簿

当資料館で、官約移民
 (※)以後の14年間のハ
 イ移民渡航者の名簿検索が
 可能となった平成28
 (2016)年から5年が



経ちました。この間にたく
 さんの方々が検索に訪れ、
 記帳いただいた方の利用だ
 けでも約260件、その他
 にも数えきれない程の問い
 合わせや来館されてご自身
 で検索されるお客さんの姿

もたびたび見受けました。

多くの方が「名前がありました」と大きな声を上げ報告してください。「先祖がハワイに渡ったという話は聞いていたけれど、記録のなかの当時の文字で書かれた名前を実際に目にするのと何とも言えない気持ちになり胸が一杯です」と親族の歴史話などに話がはずみます。

名前が見つからない場合でも、何か情報がないか私たちスタッフも色々な方法でトライします。少しでも資料が見つかるこちらでも嬉しくなり、途切れていた糸がまた繋がったような気になります。中には「家族によく確認してから必ずまた来ますね」と資料のコピーを大事そうに持つて帰る方もいます。

ほかにも、先日、ハワイから先祖探しの依頼電話がありました。この方は日本語を話すことができ、友人から「山口県出身と聞いている祖父母について調べて欲しい」と依頼されたとのことでした。幸い、名簿検索で明治37年に渡航した記録が見つかり、お知らせすることが出来ました。コロナ感染症が収束したら、是非訪館して確認したいとお言葉を

いただきました。

この検索コーナーは移民の関係者にとっても、大島にとってもすごく大切なデータです。これからも、もっとも利用していただければと思っています。

※官約移民は明治政府が初めて正式に認めた移民であり、ハワイ王国との政府間の契約で、1885年(明治18年)から1894年まで10年間継続されました。以後は、民間に委託され私約移民、自由移民と呼ばれる。(山本・砂田)

スタッフ研修会を開催



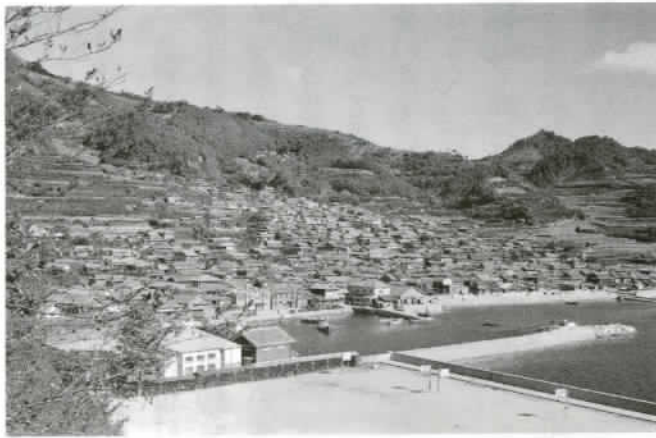
周防大島町社会教育施設連携協議会

しい状況がつづいています。そこで、本年度は自分たちの足元を見直そうと町内での研修会を企画しました。

7月27日、「資料の取り扱い方」を学ぶため、八幡生涯学習のむらの古賀瑞枝さんを講師として会を開きました。今回は、どんな資料を収集すべきかという資料館としての基本的な心構えから、古文書や民具の梱包・保存・運搬の仕方や展示の工夫といった実務的な手法について、実践も交えながら約2時間にわたり話してもらいました。

参加したスタッフからは、「他の市町の取り組みを見るのは刺激になるが、改めて自分たちの資料館の仕事を見直す機会になった」「資料を取り扱う専門家でなくても知っておくべきことを一からきちんと知れてよかった」という感想がありました。コロナの影響でなかなか思い通りの活動が難しい現在ですが、今後も町内の社会教育施設同士で共に学び合いながら活動を充実させていければと思います。(徳毛)

当協議会では、毎年町外への研修ツアーを開催していました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で、研修の計画を立てても実施が難



【写真＝旧安下庄高校から見た景観 昭和35年10月22日】



写真は景観の変遷を知るうえで重要な資料といえます。まだ港湾地区の埋め立てが進んでいないころは海岸付近に家屋が密集し、山の法面は6、7合目まで拓かれていた様子がよくわかります。このころはミカン畑に切り替わるころでした。最近道のつけかえが完了しましたが、このころは海岸の道さえも狭小でした。現在は埋め立てが進み、防波堤もで

きて行き来や防災面では便利になりました。その一方で「海との心情的な距離ができた」「潮の流れの関係で魚が獲れなくなった」という話も聞きます。今後のインフラ整備への示唆的な写真かもしれません。

旧安下庄高校のグラウンドには駐車場が見えます。当時はまだ車も普及しておらず、島内全域から生徒が通い、自転車通学が一般的な時代でした。東和の人からは1時間弱かかって通っていたという話も聞きました。(徳毛)

イベントひろば

八幡生涯学習のむら

▼表具講座を見学できます

毎年春と秋に開講している学習のむらの表具講座。2年、3年と続けて受講される方も多い人気講座です。講座では周防大島町久賀で表具師として活躍されている講師に表具の歴史や技術、日本建築などについて解説していただきながら実際に掛軸を作成していきます。初めての方は講師が用意した材料を使って紙の扱い方やノリの種類、刷毛の使い方



を練習しながら掛軸を作る技法を学びます。経験を積んで自分の作品や思い出の品を表装していく方も。気に入った書や画を自分で掛軸に仕立て、新しい季節を迎えるのも楽しみです。開講中はご自由に見学いただけます。まずは見学から、お気軽におこしください。

【日程】10月30日(土)、31日(日)、11月7日(日)、14日(日)、20日(土)、21日(日)

【時間】13時半～16時半

【場所】八幡生涯学習のむら 語ら

いの間

【講師】金本豊(表具工指導員・一級技能士)

【問い合わせ】

0820・72・2601

▼印(篆刻)を作ってみよう!

石などに文字や図形を彫って印を作ることを篆刻といいます。掛軸や日本画に押されている文字とも模様とも見える不思議な印といえば思い浮かぶ方も多いのではないのでしょうか。今回は石を彫って印を作ります。篆書や漢字でなくてもイニシャルや記号など自由に作っていただけます。カードや年賀状、あるいは愛読書に押す蔵書印として：出来上がりを楽しみにチャレンジしてみませんか。



【日程】12月4日(土) 《予定》

【時間】10～12時

【参加費】500円(材料費)

【場所】八幡生涯学習のむら ふれあいの間

【問い合わせ】

0820・72・2601

暮らしの
モノ語り

洗い張り板

六万点の民具から：

洗濯した着物の布地を張り付けて乾かすための板である。幅約40センチ、長さ約2メートル、1軒の家に3〜5枚あった。

かつて着物は一度仕立てたものをそのまま古くなるまで着続けるのではなく、ほどこいて布地にもどし、洗濯して糊付けしまた仕立て直すという手入れをした。糊付けした布地を張り付けて乾かす作業を「洗い張り」といい、主婦の大事な仕事の一つだった。一冬着た着物は春になるとほどこき、夏に洗い張りをする。そして秋から冬にかけて仕立てるというサイクルだった。家族中の衣類の手入れは手間がかかった。夏には布地を張り付けた張板がいくつも並んだ。

洗い張りをする布は木綿で、絹物は伸子張りにしたり、専門の洗い張り屋に出していた。糊付けにはフノリやデンプンノリを使った。フノリは海藻から、デンプンノリはメリケン粉やご飯粒から作った。ノリは布袋に入れて水でとき、これに洗濯し

て汚れを落としたりした布地をひたして糊付けした。張板は裏表の両面が使える。布地を表に張り終わると裏返して裏にも張った。張る時には着物の表になる方を板側にして張った。布の表



【写真中央・左＝浜本栄撮影。昭和45年頃 東和町と推定】

が日光にあたって色あせないようにするためである。布地を板の端にあわせて張ると布目をまっすぐに乾かすことができた。張り終わった張板は適当なところに立てかけて乾かした。乾くとはがして、また次を張った。よく乾いた布地をサーツとは

がすのは気持ちよかった。

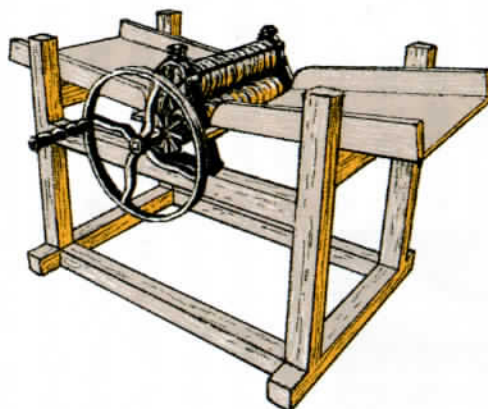
着物を解いて、また縫って、という作業は大変だがメリツトもあった。着物は長方形のパーツでできているので傷んだ部分があればその布だけ取り除くことができる。洗い張りはそのよい機会だった。残った布は上つ張りや布団に仕立て直したりして長く使うことができた。ほどこいたときに糸は軽くまとめとっておき、ちよつとしたものを縫うときに使った。実際に洗い張りを経験した人によれば、当時はそれが普通だったので特に面倒とも思わなかったという。(古賀)

◆わら打ち機を探しています◆

その名のとおり、ワラをやわらかくするための機械です。大人が立つて作業できるくらいの高さで、中央にハンドル、左右にワラを乗せる台があります。一方の台にワラを乗せてハンドルを回すと機械を通って反対側の台にやわらかくなったワラが送り出される仕組みです。台は差し込み式で、取り外して収納しました。ワラは縄に、細工物にと暮らしの様々な場面で使われてきましたが、

使う前にはあつかいやすくするためによく打っておく必要があります。これがワラ打ちという工程で、木の横槌が使われてきました。ワラ打ち機が登場するとこの作業が容易にできるようになりました。周防大島町ではワラ打ち機を探しています。ご提供いただける方はどうぞご連絡ください。周防大島町社会教育課

【0820・78・2514】



【わら打ち機イメージ】

【お詫び】35号にて紹介いたしました八幡生涯学習のむら企画展「東和写真展」の開催時期は令和3年9月7日(火)〜11月28日(日)とさせていただきます。訂正してお詫びいたします。